

---

# 幻光の中に咲く花

和

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幻光の中に咲く花

### 【Nコード】

N6168M

### 【作者名】

和

### 【あらすじ】

一人の恋の話です。その恋は成就できたのか？その人の恋は長期に渡る、人生を賭けるほどの一目惚れでした。

「貴方に渡すこの種を  
育ててはくれないか？」

そう言われて渡された種は  
白い 白い種でした。

「その種が花咲くときに、  
あなたを迎えにいく。」と  
白い長髪と紫眼の綺麗な人は、  
遠くへ 消えてしまった。

幼き私は

その言葉を信じて

鉢植えに種を植えた。

その人にもう一度、

会いたくて、会いたくて、会いたくて、  
会いたくて、会いたくて、会いたくて、  
私の心中は囚われていた。

幾日経ち・・・、

少年になった私は

鉢植えに産まれた

ひとつの芽を育てていた。

その人にもう一度、

会いたくて、会いたくて、会いたくて、  
会いたくて、会いたくて、会いたくて、  
私の意識は囚われていた。

幾月経ち・・・、

青年になった私は

鉢植えから庭に移した、

一つの苗を育てていた。

その人にもう一度、

遭いたくて、遭いたくて、遭いたくて、遭いたくて、  
私の真情は囚われていた。

幾年が経ち・・・、

大人になった私は

少しの諦めと供に

一本の木を育てていた。

その人にもう一度、

逢いたくて、逢いたくて、逢いたくて、逢いたくて、  
私の魂は囚われていた。

幾十年と経ち・・・、

老人になった私は

一つの蕾がなった大樹を

寝具の中から眺めていた。

その人にもう一度、

会いたくて、会いたくて、遭いたくて、逢いたくて、  
私の心身は囚われていた。

逝く時が近ずいた時、

私は夢を見ていた。

淡き白き世界にて

幼き私に戻っていた。

「向かいに来たぞ。」と

笑顔で差し出された手を握り、  
微笑みながら光り差す方向に  
歩き出す夢を視ていた。

『やっとなあえたのだ。』

老人の体が冷たくなった時、  
庭にあった樹の蕾は花となっており、  
中心が紫色の綺麗な白い花が  
咲き誇り、そしてすぐに大樹は枯れてしまった。

（後書き）

恋愛物は初めて書きました。はっきり言ってまともな恋愛してないものですから一目惚れのこと余り解らず書いてしまいました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6168m/>

---

幻光の中に咲く花

2010年10月22日00時09分発行